

A Letter from
Laurie



留学生だより

ローリー・マーテルさん

※緊急帰国前に寄稿していただきました。

私が、日本で特にお気に入りのものといえば、デザートです。

日本の抹茶やあんこなど、私にとって初めての味を堪能しています。異文化を知る一番簡単な方法は、その国のデザートを楽しむことだと思っていますので、今回は、甘いものに目がない私がおススメするカナダのデザート、日本の甘党の皆さんにいくつかご紹介したいと思います。本場の味をぜひいくつかカナダで試してみてくださいね。

まずご紹介したいのが「Pouding Chômeur」です。このお菓子は、ケベック州発祥のため、フランス語の名前がついており、「失業者のプディング」、もしくは「貧乏人のプディング」という意味です。おどけた響きの名前ではありますが、このデザートの由来はそうではありません。実際1929年ウォール街の大暴落に端を発した世界大恐慌の時に考案されたデザートとして有名です。失業者や生活に困窮する人で溢れかえり、苦しい生活であっても甘いものを食べたいという気持ちから、黒糖を煮詰めたカラメルの中に、古くて硬くなったパンを入れて焼く、という質素な材料から作られるようになったそうです。その後時代とともに黒糖を煮詰めたカラメルから、メープルシロップへと変わっていきました。

次にご紹介するのは私にとっては懐かしいお菓子、「メープルタフィー」です。フランス語では「tire d'érable」と呼ばれ、「メープルで描く」という意味です。

作り方はフランス語の名前のとおり簡単です。煮詰めたメープルシロップを雪の上に描くようにかけて、棒でくるくると巻いてでき上がりです。冬になると、メープルタフィーをつくるために、父が、踏み荒らされていない、綺麗な雪を集めに外へ出かけます。その間に、母はキッチンでメープルシロップを鍋にかけて準備をするのですが、その鍋から立ち昇る匂いがたまらなく美味しそうに感じたことを覚えています。このデザートはケベック州発祥ともいわれますが、北アメリカでもつくられていたようです。冬のお祭りやメープルの樹液を収穫する3月下旬のシュガーシーズンに欠かせない大人気のお菓子です。

ご承知のとおり、メープルシロップはカナダのデザートにおいて重要な役割を果たしています。ケベック州の伝統菓子のシュガーパイにもメープルシロップはたっぷり使われています。フランスやベルギーの伝統菓子であったシュガーパイのレシピを、カナダ流にアレンジして作られたのが「バタータルト」です。作り方は似ていますが、メープルシロップやメープルクリーム代わりに黒糖やバター使用し、バタータルトの方がややシンプルな材料で作られ、ご家庭によってレーズンやくるみを混ぜたりするところもあるようです。今ではバタータルトはオンタリオ州を代表する伝統のお菓子となっており、バタータルトの名を冠したお祭りも開催されているほどです。

ブリティッシュ・コロンビア州発祥の有名なナナイモバーや、サスカトーンベリーパイなど、ほかに有名なカナダのデザートはたくさんあるのですが、最後に私がぜひご紹介したいイチオシのデザートは「デーツスクエア」です。デーツ(なつめやし)とオートミールをつかったシンプルな製法で作られます。このお菓子の歴史的由来には諸説あるためか、名前ですら場所によって「デーツランブル」や「夫婦のケーキ」などさまざまですが、どんな名前であっても関係ありません。だって間違いなくどれも美味しいのですから！

ローリー・マーテルさん

2019年度奨学一時金事業対象者
現在カナダへ帰国



▲ローリーさんのお母さま
お手製のデーツスクエア



▲メープルタフィー



▲ローリーさんのお母さまお手製のバタータルト

事務局から

会員募集

福岡カナダ協会では会員を募集しています。お知り合いに、カナダにご興味のある方、カナダへの留学・滞在経験者の方、福岡在住のカナダ人の方がいらっしゃいましたらご紹介ください。

メイプル通信 Maple NEWSLETTER

福岡カナダ協会広報誌

Fukuoka
Canada
Society

Vol.49



花の都ヴィクトリアの州議事堂（ブリティッシュ・コロンビア州 バンクーバー島）

2020年理事会・総会(書面開催)

例年5月に予定しております理事会、総会につきまして、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮し、理事会、総会については書面開催、懇親会については中止とさせていただきます。

理事会、総会では2019年度の事業報告・収支決算報告、2020年度の事業計画・収支予算及び役員を選任について書面にて表決いただき、すべて原案どおり可決・承認されました。皆様のご協力、ありがとうございました。

また、メイプル通信Vol.48でお知らせいたしましたカナダ訪問団につきましては、残念ながら今年度は中止とさせていただきます。(次回は2022年度を予定しております)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により カナダへ緊急帰国することになった留学生 ローリー・マーテルさんからの現地レポート



※2020年6月8日寄稿



ソーシャルディスタンスを推奨する掲示板

2月下旬、大学から「新型コロナウイルスの影響により3月から臨時休校」という連絡があり、その時初めて予想以上に新型コロナウイルスの影響が深刻であることを実感しました。それからというもの、日に何度もメールを確認しては、状況が好転していないかネットニュースを確認する不安な日々が続きました。ほぼ毎日、日本に残るべきか、それとも帰国すべきか、ということは何度も何度も考えていました。その頃、各国で国境封鎖を始めていたこともあり、私が帰国できなくなるのではと家族はとても心配し、モントリオール―成田間のフライトがまもなく運行休止になるという知らせを受けて、ようやく帰国を決断しました。決断から三日後、私は日本を去ることになりました。

帰国の日、どうしてこんなことになってしまったのだろうと、とてもやるせない悲しく思う反面、帰国することは今の自分にできる最善の選択でした。空港はいつもと何一つ変わらず、違うことは人々が「マスクをしている」ということだけでした。成田空港では、職員から体調についていくつか簡単な質問をされただけで、特別な検査はありませんでした。搭乗した成田―モントリオールの直行便は、欠航になる前の最終便だったこともあり、搭乗口はたくさんのフランス系カナダ人で溢れていました。機内は新型コロナウイルスへの新たな対応策として、まくらやブランケットの提供も中止、使い捨てのものを使用するなど、徹底的に乗客とクルーの接触を低減する取り組みを行っていました。

13時間後カナダに到着し、両親は空港まで迎えに来てくれました。帰国者に対しての衛生上のルールがあったにも関わらず、両親は私をさっと抱きしめてくれました。これが帰国後14日間を通して唯一のスキンシップです。なぜならその後、自主隔離をする必要があったからです。

帰国直後の状況は、とても辛いものでした。帰国すれば家族にも友人にも会って楽しく過ごすはずが、現実はその逆で、私は自分の部屋にこもり家族から離れて食事し、家の中では共用のものをできる限り使わず、私が触れるものはすべて除菌しなくてはなりません。毎日がとても孤独で、自分が人ではなくウイルスそのものになったような気持ちにさえなりました。先生やクラスメートにオンラインクラスで会うことができ、落ち着きをようやく取り戻すことができました。

帰国してからというもの、あらゆることが変化していました。私が帰国した頃は、飲食店、建設業、運輸業、ショッピングモール、ヘアサロンなど不要不急のサービスの自粛を義務付けられ、多くの人々が失業し、



カナダの空港 (2020年5月下旬撮影)

案内板には、カナダ入国者に対し、14日間の自主隔離をする必要があることが記載されている

新規会員のご紹介

今回の理事会にて、下記の方々の入会が承認されましたので、ご紹介します。

法人会員 東芝エネルギーシステムズ株式会社様

個人会員 田代 哲也様、貫 カツエ様、吉武 政治様
(50音順)

カナダ人会員 カーク・パタソン様

カーク・パタソンさんについて

この度、当協会にご入会いただいたカナダ人のカーク・パタソンさんは、日本在住歴31年で、日本語は読み書き・会話ともに流暢です。東京でさまざまな要職に就かれ、米国のテンプル大学日本校で学長をお務めになった後、退職。その後、長年の夢だった外洋航行のソロセイラーを目指してカナダへ帰国し、ヨットを購入。ブリティッシュ・コロンビア州とアラスカ州の海岸を巡航することで航海技術を習得し、単独カナダからハワイを経由して日本まで太平洋横断を実現。その後、3年間かけて外国人として初めてヨットでの完全日本一周を成功。途中、福岡のマリーナで素敵な女性と出会ったカークさんは、結婚、永住を決意。外国人観光客が日本の海の素晴らしさを体験できるように、福岡にマリンツーリズムの会社*を設立されました。



カーク・パタソンさん

※HP検索: Konpira Consulting



カナダのスーパーマーケット (2020年4月撮影)

ソーシャルディスタンスをとりながら、行列をつくる買い物客

経済的な損失は計り知れません。ガス料金は大幅に下落し、学校は休校、子供たちは自宅学習を余儀なくされており、スーパーマーケットや薬局は営業しているものの、それでも一度に店内に入れる人数を規制しているために、大行列となっています。最近では、少しずつではありますが、規制が緩和されさまざまな営業が再開しています。それでも街から街への移動はまだまだに禁止されています。

まず街から街へ移動するには、特別なパスが必要です。高速道路は封鎖され、警察の監視下に置かれています。私達も外出時には2mのソーシャルディスタンスを義務付けられ、70歳以上の人は外出そのものが自粛となっています。

新しい規制を守るためには更なる忍耐を必要としますが、夏が近づくにつれ外出への気持ちは高まるにも関わらず、外出もままならない状況に人々の我慢も限界に近づきつつあります。何しろ外出するだけで感染の恐怖がいたるところにあり、ストレスを感じずにはいられないからです。カナダ人はマスク着用が馴染みがないせいか、着用の義務を苛立たしく思いあえて着用しない人たちやそのような人を危険視する人たち、心配をしすぎる人や気にしない人などさまざま、至るところに不満の種がくすぶっています。

現在の状況は確かに厳しいですが、希望はもち続けています。世界中で行われているように、ここケベックでも虹の絵を描き、窓に飾っています。どんなに先行きの見えない日々であっても陽はまた昇るように、虹もまた希望のシンボルです。

末筆ではございますが、福岡カナダ協会の皆様のご健康と、前向きな気持ちでこの困難を乗り越え、いつかまたお会いできることを心から願っています。



モントリオール (2020年5月撮影)

フランス語でかかれたIt will be ok (きっと大丈夫)